

CALLについて (2)

— e-Learning ソフトの活用と自学自習型授業について—

横 村(鵜木)栄 美

0. はじめに

2006年4月より、本学言語センター5階にあるLL教室が設備更新され、同年9月より、英語学習用e-Learningソフト『ALC NetAcademy』が導入されました¹。その一年後、ALC NetAcademy2へのバージョンアップを行いました。導入当初は授業への導入は個々の教員の判断によるものであったため、利用頻度はあまり多いとはいえ、特定の教員と学生しか、このソフトの存在を知らないという状況が続きました。

ALC NetAcademyとは、アルク教育社より販売されているe-Learningソフトで、TOEICで出題されるテーマがコンテンツとなっているリーディングコース、リスニングコースなどを学習できるものです。また、TOEICで出題される単語の学習や、TOEIC演習などの学習コンテンツも含まれています。本学の学生と教職員であれば、言語センターで発行するユーザIDとパスワードを使って学習できます²。

本稿では自学自習型の英語科目である『英語ID』の概要と、このALC NetAcademy2を使った指導について述べ、本学オリジナルコンテンツを加えて作成した、アルクの携帯電話による学習コンテンツ『アルク モバイルアカデミー』について紹介します。

1. 『英語ID』について

1-1 科目の概要

今年度より、これまで通年科目となっていた英語科目を、今年度入学の1年生よりすべて半期科目とし、『英語IA: Reading』『英語IB: Oral Communication』『英語IC: Electives』『英語ID: e-Learning』の4科目(各1単位)を開設しました。そのうち、『英語ID』は、ここで紹介するe-Learningクラスです。ALC NetAcademy2はこのe-Learningクラスで導入しています。現在、就職や大学院進学時に、TOEICスコアを要求されることが増え、全学的にTOEICを指導する必要が出てきました。本学では賛助会員となり、積極的にTOEICを全学的に取り入れることとしました。そして、学生に『英語ID』でALC NetAcademy2での学習を課し、学習した結果をTOEICで判断することとしました。これにより、英語の1単位を習得するためにはTOEICは必須となったため、学生には卒業時までにはTOEICを必ず受験することになります。

必修科目ですので、1年生は全員、このクラスを履修しなくてはなりません。前期は250名ほど、後期は300名近くの学生が履修しています。授業は、基本は自学自習ですが、毎週の学習モデルをシラバスに示しました。学習モデルとずれる学生も多いことから、毎月学習すべき最低ユニット数をALC NetAcademy2の「お知らせ」を使って示しています。具体的に、毎月、リーディング、リスニングとも、テストを含め毎週1~2ユニットずつ、TOEIC演習は1ヶ月で3ユニット以上を学習することと、道場の単語テストも進めること、毎月末までに、

終了しておくべきユニット数を示しています。学習時間や学習ユニット数が極端に少ない学生は個別に指導します。

自学自習型授業ですが、時間割に示されている時間帯には、教室（情報処理センター第一実習室：100人収容）に大学院生のTAを配置しています。TAには、パソコンにつなぐヘッドフォンの貸し出しと、トラブルが起きた際の対応をしてもらっています。学習するコンテンツの内容については質問を受けつけていませんので、主なトラブルとしてはヘッドフォンから音が出ない、画面が出ないなどのハード面の問題が多く、学習履歴が残っていない、学習中に画面が動かなくなったといったソフト面の問題はそれほど多くありません。学習履歴については、ログインしてから学習を終了するまでの時間が短かったり、指示されたボタンを押さずに画面を閉じてしまうと、学習していないと見なされることがあります。

成績は、自学自習の進捗と、TOEICテスト（IP/SP）の結果を成績基準（最低400点以上）として示しています。

1-2 ALC NetAcademy 2を使った指導について

『英語ID』の学習内容は自学自習ですが、ある程度の学習の目安として、レベルに応じた学習モデルを示しています。学生は最初の授業で、ALC NetAcademy 2に入っている「レベル診断テスト」を受けます。テストは語彙とリスニング力を測るもので、このテストのレベルに応じて、学習すべきユニットレベルが参考表示されます。その後、各自で、レベルに応じたユニットの学習を進めます。ALC NetAcademy 2には学習コースとして、リーディング、リスニング、TOEIC演習の3つがありますが、リーディング、リスニングコースにはクイズ程度の問題が2～3問しかありません。問題を解いていくというよりも、内容の理解を目的とした学習を進めることとなります。リーディング、リスニングとも、80ユニットずつあり、日本文化、ホテルでのクレーム、電話による交渉、政治問題、有名人のスピーチなど、話題もさまざまです（以下の図参照）。

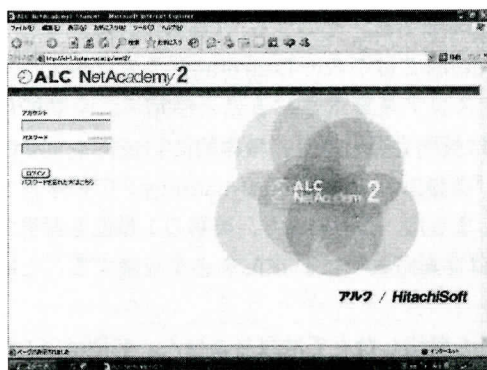


図1 ALC NetAcademy 2のトップ画面

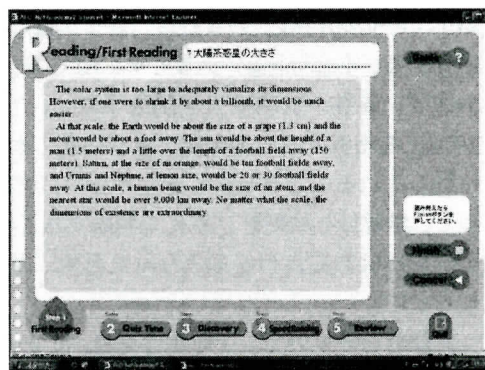


図2 学習画面（リーディング）

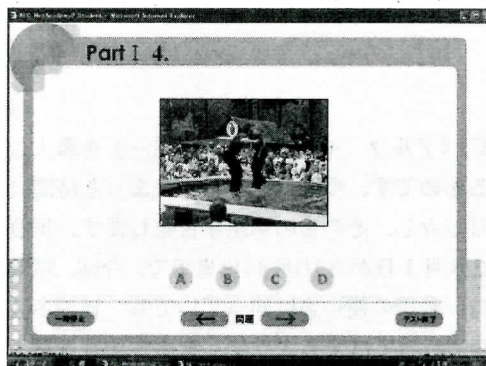
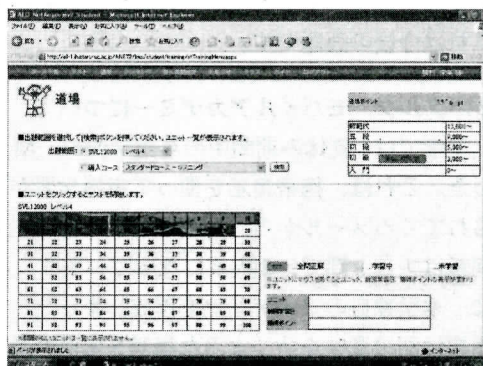


図3 学習画面 (TOEIC演習)

図4 道場
(学習が終了したユニットは絵の一部として塗りつぶされる)

リーディングコース、リスニングコースについては、収録されている話題は豊富なものの、設問が少なく、当初、学生にとって「やりっぱなし」の学習になってしまったり、飽きてしまうことになるのではないかと感じていました。しかし、実際には、こちらが示した学習モデルや毎月の学習の目安以上のユニット数を学習する学生が多くいました。特に、1ユニットにじっくり時間をかけて意味を理解する、十分に聞き取れるまでリスニングの音声を繰り返し聞くといった学習の仕方が多いようです。

TOEIC演習コースは20ユニットあり、各ユニットにはリスニング問題、リーディング問題が20問ずつ、計40問が入っています。40問すべて終わると、結果が表示され、予想得点が表示されます。1ユニットは30分から40分で終わるものですが、学生の中には、満点が取れるまで同じユニットを何度も学習するものもありました。また、学習を進めるうちに予想得点があがっていき、ほぼすべてのユニットを学習し終えた学生もありました。

予想外に学生が取り組んで学習していたものに、「道場」の単語テストがあります。単語テストは1ユニット10問で12レベル（1レベル80から100ユニット）、リーディング、リスニングコースのキーワード単語など、1万語以上が収録されており、1ユニット終わるごとにポイントが得られます。このポイントは、「ランキング」に参加することで、自分とほかの学生たちとの順位に反映されるため、学生は興味を持って学習できたようでした。全ユニットの3分の1程度、学習していればよいと考えていましたが、ランキングの効果があつたのか、総ユニットの半数以上を学習し、常にランキング上位を保っている学生などもありました。

1-3 成績について

成績評価は、前もってシラバスに記載しています。評価基準は、600点以上が「秀」、550-595点が「優」、500-545点が「良」、400-495点が「可」、395点以下は「不可」となります。前期に英語IDを履修している学生は7月22日に本学で行われたTOEIC IPテストを受験するか、過去2年以内に受験したTOEICスコアを提出することで、成績評価を行いました。今回、前期に英語IDを履修し、7月のTOEIC IPテストを受けた学生は184名でした。そのうち、85%近くの学生が「可」以上の成績を取り、受験したが「不可」になった学生は15%ほどでした。TOEICで600点以上のスコアをとり、「秀」を取った学生が13%ほどいました。今回、初めてこのようなe-Learningのみの科目を開設しましたが、最初にテストをしていないので、ALC NetAcademy 2

を使って学習することで、どの程度、成績が上がったかをはかることができないのが残念です。これは今後の課題です。

2. アルク モバイルアカデミーについて

本学では、夏休み期間中の英語学習の一環として、『アルク モバイルアカデミー』を導入しました。これは、携帯電話を使って単語学習ができるものです。受講者は毎日、決まった時間に送られてくるメールから、掲載されているURLをクリックし、その日の単語学習をします。単語の問題は一日3問で、4択式になっています。期間は8月1日から10月31日までで、今回、試験的に、本学独自のコンテンツを作成しました。これは、普段の使い方は知っていても、ビジネス場面では別の意味を持つような単語を300語選び、例文に当てはまるように4択から正答を選ぶようになっています。本学の英語担当である大島教授が独自に作成した問題から300問を選び、ホルスト准教授にチェックしていただいたものを、コンテンツ化しました。本学は商科大学ということもあり、ビジネス系の英語の使い方を知らないということが大きく問題となったり、TOEICなどの外部試験のスコアに影響したりします。そこで、本学学生に合わせた独自教材を作成することを検討しており、モバイルアカデミーはその最初の段階として、試験的に導入しました。

モバイルアカデミーは携帯電話で毎日学習できることは利点ですが、携帯電話を持っていない学生がいたり、パケット通信料がかかることもあり、学生に強制ができないという点が残念です。しかし、予習復習に利用するには十分ですし、自宅にいながら学習できるのは、長期の休みの間だけでも効果的だと考えられます。

今回は、周知期間が限られていたこともありますが、50名程度の学生がモバイルアカデミーを利用し、学習しました。この期間中、本学オリジナルコンテンツのほか、アルクオリジナルコンテンツ、また、9月より就職関連コンテンツも配信されるようになりました。

さらに、10月より、来年4月30日まで、再度、モバイルアカデミーの利用が可能となりました。こちらでは、商大オリジナルコンテンツのビジネス語彙のほか、就職関連のコンテンツも同時配信されています。すでに今回も50名程度の学生が登録していますが、さらに学生に周知し、モバイルアカデミーを多く利用してほしいと考えています。

3. おわりに

パソコンを用いた語学学習は、自習であれ対面授業形式であれ、これからも増えていきます。授業については私がオリエンテーションでの説明を行い、授業内の指示やTOEIC IPテストの周知、成績評価などを行っています。『英語ID』については、英語科教員会議で何度も話し合いをし、成績評価基準や学習の進め方のモデル作成などを決めました。実際の授業が始まり、学習の進め具合や成績評価について、何度も先生方に相談しながら進めています。

ALC NetAcademy 2ではTOEICの演習や、リーディング、リスニングの学習が可能ですが、オリジナルコンテンツを作成したり、既存の教材内容を編集したりなど、独自の教材を作ることができません。今後は他のソフトの利用や独自の教材を作ること視野に入れ、e-Learning学習を教員にとっても学生にとっても使いやすいものにしていくことが必要になると思います。

1 LL教室の設備等については「CALLについて (1)-機能の紹介と授業補助を通しての雑感-」『言語センター 広報 Language Studies』第14号、2006年、55-59頁を参照ください。

2 ALC NetAcademyは学内限定のコンテンツです。URL : <http://el-1.ih.otaru-uc.ac.jp/anet2/>